

[春季特別展] The Shoguns and Mt.Fuji

徳川将軍と富士山



● 東照大権現像
● 武田 美濃守光
● 戎野富士岡 酒井抱一筆
● 德川家宣所用



2019年4月27日[土]▶5月26日[日]

会場：静岡県富士山世界遺産センター企画展示室 一部展示替えあり

主催：静岡県富士山世界遺産センター 共催：公益財団法人徳川記念財団 後援：日本放送協会静岡放送局 協賛：株式会社静岡銀行

●開館時間：9:00—17:00（最終入場は閉館の30分前）●休館日：毎月第三火曜日（5/21）

●観覧料：一般 700円、70歳以上200円、大学生等以下・障がい者無料（証明書をご提示ください）を客観面含む。企画展のみチケットは要予約（お問い合わせ）。



Photo:Hiroyuki Hirai



静岡県富士山
世界遺産センター

Tel 0544-21-3776 FAX 0544-23-6800
<https://mtfuji-whc.jp>
JR 身延線富士宮駅から徒歩8分
新東名高速道路新富士 IC から約10分
東名高速道路富士 IC から約15分

2019
SHIZUOKA

The Shoguns and Mt.Fuji

徳川將軍と富士山

1603年に徳川家康が征夷大將軍に就任し、1867年に十五代慶喜が大政奉還するまでの260年余、日本は世界史上稀なる泰平の時代を謳歌した。

三代家光から四代家綱を経て將軍家の政策が武断から文治主義へと転換されると、五代綱吉の治世下には“元禄文化”、十一代家齊の治世下には“化政文化”が花開き、江戸文化は成熟を極めていく。“徳川の平和”的もとで、文化も貴賤雅俗を巻き込みこれまでにない多元的な展開をとるのである。

こうしたなか、徳川將軍の象徴となり江戸文化の中核に位置づけられるのが富士山である。江戸時代前期、家康以下四代の將軍に仕えた狩野探幽が富士山絵画の定型を編み出すと、富士山は江戸城内にも描かれて徳川將軍の御威光を補完する。一方、狩野探幽以降、富士山は絵画ジャンルとして確立され、化政文化を中心とする江戸時代後期には、葛飾北斎や谷文晁、酒井抱一らにより世界遺産富士山「芸術の源泉」としての側面を担う富士山絵画の傑作群が生み出される。

本展覧会では、未曾有の平和と繁栄をもたらした歴代將軍の事績をたどりながら、彼らと富士山との関係をひもとき、江戸文化隆盛の一端を感じていただきたい。

第1章～泰平の礎を築く Foundation of the Long Peace

主な出品作 太刀 銘 来國光（公益財團法人徳川記念財團）

兜 大黒頭巾形 菩薩前立（久能山東照宮）

「東照大権現像（白描）」（公益財團法人徳川記念財團）

「東照大権現雲夢像（家康家光対面像）」（公益財團法人徳川記念財團）



第2章～文治主義の完成と元禄文化の開花 Civil Rule and Genroku Culture

主な出品作 「徳川家綱像」狩野安信筆（公益財團法人徳川記念財團）

「秋景富士三保清見寺図」狩野常信筆（静岡県富士山世界遺産センター）

「富士圖」徳川綱吉筆（公益財團法人徳川記念財團）



第3章～徳川家齊と爛熟する化政文化 Tokugawa Ienari and the Florishing of Kōsei Culture

主な出品作 「徳川家齊像」狩野養信筆（公益財團法人徳川記念財團）

「振袖帷子 白麻地済松模様 徳川家齊十一女浅姫所用」（福井市立郷土歴史博物館寄託）

「富士山中真景全図」谷文晁筆・徳川家齊識語（静岡県富士山世界遺産センター）

「武藏野富士図」酒井抱一筆（公益財團法人徳川記念財團）

「江戸名所之繪」鍼形蕙斎画（東京都江戸東京博物館）

「富嶽三十六景」「江戸日本橋」葛飾北斎画

⑤

第4章～「徳川の平和」、新たなる時代へ The End of 'Pax Tokugawana' and the Rise of Modern Japan

主な出品作 「徳川家茂像」徳川茂承筆（公益財團法人徳川記念財團）

「筒袖陣羽織 徳川家茂所用」（久能山東照宮）

「徳川慶喜像」川村清雄（公益財團法人徳川記念財團）

「軍帽 徳川慶喜所用」（久能山東照宮）

特別
公演

2019年4月27日(土) 13時30分～15時

- 会場：富士宮市立中央図書館 視聴覚ホール
- 講師：徳川恒孝（公益財團法人徳川記念財團理事長）
- 演題：江戸の遺伝子

幸許録は <https://mtfujishwhc.jp/> にてご確認下さい。

⑥ 東照大権現像（白描）

⑦ 秋景富士三保清見寺図 狩野常信筆

⑧ 振袖帷子 浅姫所用

⑨ 徳川家齊像 狩野養信筆

